

アンケートA（学校回答用）

※ 以下の集約において「（43校中）」に示す数値は、複数回答可の質問において、該当する旨の回答をした学校の割合である。

問1：本事業の主担当者の役職・校務分掌等を1つ選択してください。

① 教頭	22.7%
② 教務	2.3%
③ 進路指導・キャリア教育	0.0%
④ 生徒指導・生徒会指導・特別活動指導	40.9%
⑤ 総務・渉外・PTA	2.3%
⑥ 人権教育	6.8%
⑦ 図書・情報・文化	0.0%
⑧ 保健体育	0.0%
⑨ 環境整備・美化	0.0%
⑩ 地域交流・連携・コミュニティ・スクール	2.3%
⑪ その他	22.7%

主担当者のうち18名(40.9%)が④生徒指導・生徒会指導・特別活動指導担当者である。また、①教頭は10名(22.7%)である。⑪その他は広報・学部主事・専門教科担当がそれぞれ複数名である。⑩地域交流・連携・CS担当は1名(2.3%)である。

問2：本事業及び「地域と共にある学校づくり」全般（以降「全般」）において、どのような取組をしましたか。あてはまるもの全てを選択してください。

	本事業	全般
① 高齢者・障害者・子どもへの奉仕や支援	23.3%	37.2%
② 高齢者・障害者・子どもとの交流などを通じた学習活動	44.2%	58.1%
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	16.3%	25.6%
④ 地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画	30.2%	39.5%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	9.3%	25.6%
⑥ 地域の行事や活動に参加	44.2%	74.4%
⑦ 企業との連携・協働（共同開発、販売体験など）	7.0%	18.6%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	39.5%	46.5%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動・環境整備活動など）	44.2%	76.7%
⑩ 地域への情報発信	16.3%	27.9%
⑪ その他	11.6%	7.0%

(43校中) (43校中)

②高齢者・障害者・子どもとの交流・学習活動、⑥地域の行事や活動への参加、⑨地域への奉仕の割合が最も高く、次に⑧地域貢献が続く、多様な活動が行われていることが窺える。
 「地域に資する人材育成」の観点では、④まちづくりや⑤地域文化に等に関する取組、⑦企業との連携・協働に生徒が参画することも重要であり、この分野の取組が充実することが期待される。

問3：本事業及び「全般」の取組は、年間、のべ何日活動を実施しましたか。

	計	平均
本事業	1222	27.8
全般	1920	43.6

問4：本事業で実施した取組は、始めて何年目になりますか。あてはまるものを1つ選択してください。

① 1年目	13.0%
② 2年目	8.0%
③ 3～5年目	28.0%
④ 6～10年目	28.0%
⑤ 11年目以上	23.0%

取組を長年にわたり実施している学校が多い。地域とのこれまでのつながりを大切にし、継続的な取組が実施されていることがうかがえる。

問5：本事業及び「全般」の取組に関わっている生徒の立場は、次のどれに当たりますか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業	全般
① 希望者・有志	41.9%	60.5%
② 生徒会	51.2%	69.8%
③ 全校生徒	11.6%	16.3%
④ 学級・学科・コース・学年単位	30.2%	48.8%
⑤ 教科・科目(授業)として	25.6%	41.9%
⑥ 家庭クラブ	25.6%	39.5%
⑦ 部活動	58.1%	58.1%
⑧ その他	4.7%	11.6%
	(43校中)	(43校中)

半数を超える学校で②生徒会・⑦部活動がこの取組に関わっており、学校の強みを活かして地域とつながっていることがうかがえる。一方で、本事業を含む取組全般で、④学級・学科・コース・学年⑤教科・科目のように「教育課程の一環」として行っている取組がそれぞれ40%を超えている。今後は、「社会に開かれた教育課程」の実現のためにも、この視点での取組も充実していくことが望まれる。

問6：本事業及び「全般」の取組に関わった生徒数を、「のべ人数」でお答えください。

	計(人)	平均(人)
本事業	10630	241.6
全般	18110	411.6

問7：本事業の取組を通して、生徒にどのような力や意識が身につくことを期待しましたか。あてはまるものを全て選択してください。

① コミュニケーション力	93.0%
② 自信・成功(失敗)体験・自己有用感	74.4%
③ 問題を発見・解決する力	32.6%
④ 目標や計画を立てる力	32.6%
⑤ 規範意識	32.6%
⑥ 主体的に行動する力	74.4%
⑦ 地域の課題を意識すること	32.6%
⑧ 地域や保護者の評価を高めること	30.2%
⑨ その他	2.3%
	(43校中)

93%の学校が①コミュニケーション力の向上を挙げている。また、②自己有用感や⑥主体的に行動する力も、それぞれ74.4%の学校が目標(ねらい)として挙げている。
地域と共にある学校づくりを進める上で、どのような生徒を育成するのか、目標を明確化し、それを共有することはとても重要な事項である。今後も学校と地域が目標や課題、ビジョンを共有し、取組を進めることを大切にしていきたい。

問 8 : 本事業の「やりがい」は何だと思えますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 学習内容が豊かになること	25.6%
② 生徒が社会参加の機会をもつこと	88.4%
③ 地域の学校理解が進むこと	76.7%
④ 地域の活性化に貢献すること	65.1%
⑤ 職員のつながりや経験値が増し、学校の教育力が上がる	23.3%
⑥ 学校が特色をもつこと	30.2%
⑦ やりがいは感じていない	0.0%
⑧ その他	4.7%

(43 校中)

⑦の0%は、すべての担当者にこの取組へのやりがいを感じていただいていることを示している。その中でも②社会参加の機会(88.4%)、③地域の学校理解(76.7%)、④地域活性化(65.1%)を多くの学校がやりがいと捉えている。

問 9 : 本事業や「地域と共にある学校づくり」に取り組むにあたって、教職員同士の連携はとれていると思えますか。(1つ選択)

① 十分とれている	13.6%
② 比較的とれている	68.2%
③ あまりとれていない	13.6%
④ とれていない	4.5%

①②の合計で81.8%と、高い数値を示している。今後も十分に連携をとり、目標・課題・ビジョンを明確にし共有することで、より一層取組を深化させていただきたい。

問 10 : 本事業や「地域と共にある学校づくり」に取り組むにあたって、学校と地域との連携・協働は、十分できていると思えますか。(1つ選択)

① 十分できている	15.9%
② 比較的できている	70.5%
③ あまりできていない	13.6%
④ できていない	0.0%

①②の合計で86.4%と、高い数値を示している。地域との連携・協働において、どのような生徒を育成するのか、地域と目標を共有することはとても重要であり、今後ともその視点を大切に連携・協働を深めていただきたい。

問 11 : 本事業の「負担」があるとすれば、それは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

① 事務的な業務が増えること	79.1%
② 生徒を指導する時間が増えること	39.5%
③ 職員の共通理解を図ること	34.9%
④ 休日など、時間外に勤務すること	62.8%
⑤ 地域との関係構築(維持)やコーディネート	51.2%
⑥ 負担はない	2.3%
⑦ その他	2.3%

(43 校中)

問 8 で示したように、すべての担当者がこの取組にやりがいを感しているものの、この質問で⑥負担はないが2.3%(1名)であり、この取組に負担を感じている担当者が多いことを示している。その中で、①事務的業務の増(79.1%)、及び④休日・時間外の勤務(62.2%)については、働き方に関わるものであり、教職員間の連携・共通理解等をとおして負担の軽減または解消を図る必要がある。

問12：地域が学校に寄せている「期待」は何であると感じていますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 地域の行事に参画すること	81.4%
② 高齢者の支援をすること	20.9%
③ 保育園・幼稚園・こども園・小学生・中学生を支援すること	44.2%
④ まちづくりや地域（産業）振興	62.8%
⑤ その他	4.7%

(43校中)

81.4%の学校が①地域行事参加・参画に、そして62.8%の学校が④まちづくり・地域振興に期待を感じていると回答している。これらは、生徒が地域課題を意識することの大切さを学校が認識し、かつ地域を「学びのフィールド」と捉えている現れであると思われる。

問13：「地域と共にある学校づくり」（本事業やコミュニティ・スクールを含む）を担当する組織は、校内組織に位置づけられていますか。（1つ選択）

① 地域との連携・協働の校務分掌がある	9.1%
② 地域との連携・協働に関する委員会等の組織がある	6.8%
③ 特定の校務分掌の中に地域との連携・協働を担う部門がある	31.8%
④ 地域との連携や協働を所掌する教員がいる	22.7%
⑤ 教頭が地域との連携・協働を担っている	11.4%
⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている（導入準備担当者を含む）	2.3%
⑦ 組織はなく係員もいない	15.9%

地域との連携・協働を所掌する校務分掌や委員会、部門などの組織があるとする学校が①②③の合計47.7%である一方、⑦組織も係員もないとする学校が15.9%ある。

組織的・継続的な取組を実現していくためには、学校運営協議会設置をはじめ、地域と共にある学校づくりを所掌する組織を校内に位置づけることが大切である。

問14：「地域と共にある学校づくり」（本事業やコミュニティ・スクールを含む）の取組を一層推進するために必要だと思われる情報や支援は何であると考えますか。あてはまるものを全てを選択してください。

① 国や県の政策動向	18.6%
② 取組の基本的な考え方や理念	46.5%
③ 他校の事例	48.8%
④ 予算措置	67.4%
⑤ 研修会	23.3%
⑥ アドバイザー等の派遣	16.3%
⑦ 人権・地域教育課のホームページ	2.3%
⑧ 情報や支援は特に必要としない	0%
⑨ その他	7.0%

(43校中)

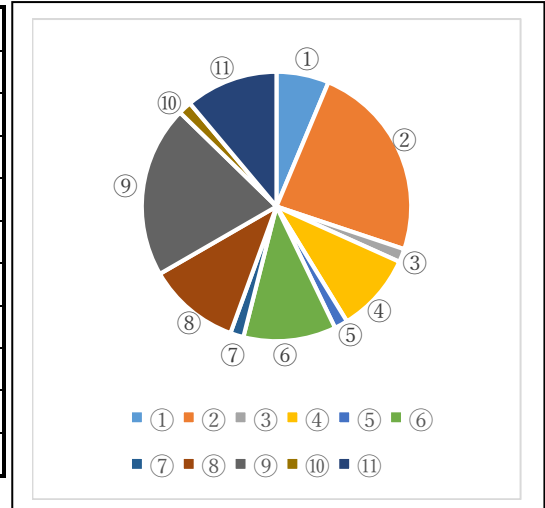
④予算措置に続き、多くの学校が①考え方・理念③他校の事例を必要な情報としている。

県教育委員会としては、今後も研修会等において先進校の事例を紹介したり、取組の情報交換ができる場を設定したりするなど、情報提供の工夫を図りたい。

アンケートB（生徒 65 名が回答）

問1：どのような取組をしましたか。

① 高齢者・障害者・子どもへの支援	6.3%
② 高齢者・障害者・子どもとの交流・学習活動	23.8%
③ 専門家等を招いての学習、または専門施設での学習	1.6%
④ 地域の活性化や振興（まちづくり）	9.5%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組	1.6%
⑥ 地域の行事や活動への参加	11.1%
⑦ 企業との共同開発や販売体験	1.6%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	11.1%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動・環境整備活動など）	20.6%
⑩ 地域への情報発信	1.6%
⑪ その他	11.1%



②高齢者・障害者・子どもとの交流・学習活動の割合が最も高く、次に⑨地域への奉仕・⑥地域の行事や活動への参加・⑧地域貢献が続き、多様な活動が行われていることから、この取組が充実してきていることが言える。

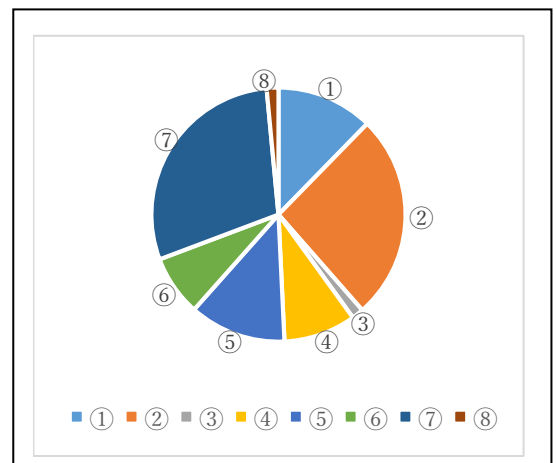
「地域に資する人材育成」の観点から、まちづくりや地域文化に等に関する取組に生徒が参画することは重要であり、今後、充実していくことが期待される。

問2：本事業の取組に、これまで何回参加しましたか。

① 1回	29.2%
② 2回	24.6%
③ 3回～5回	23.1%
④ 6回以上	23.1%

問3：本事業の取組には、どのような立場から参加・参画しましたか。

① 自主的に希望者として	12.3%
② 生徒会として	26.2%
③ 学校行事として全員で	1.5%
④ 学級・学科・コース・学年全員で	9.2%
⑤ 教科・科目(授業)として	12.3%
⑥ 家庭クラブ	7.7%
⑦ 部活動	29.2%
⑧ その他	1.5%



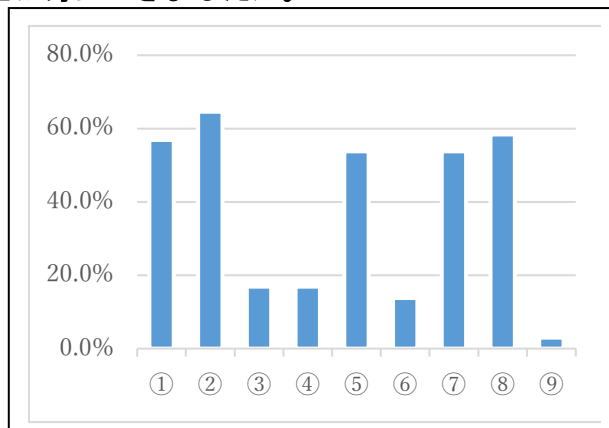
②⑥⑦のように生徒会や部活動、クラブとして参加している割合が全体の60%を超えており、各校の特色を活かした取組が進められていることが窺える。

④⑤のように「社会に開かれた教育課程」の一環と考えられる取組が合計で20%を超えている。今後は、「社会に開かれた教育課程」の実現のためにも、この視点での取組も充実していくことが望まれる。

問4：本事業の取組を通して、どのような力や意識などが身につきましたか。

① コミュニケーション力	56.9%
② 自信や経験値	64.6%
③ 問題を発見・解決する力	16.9%
④ 目標や計画を立てる力	16.9%
⑤ 自ら主体的に行動する力	53.8%
⑥ 地域の課題を意識すること	13.8%
⑦ 地域の方との関係が深まったこと	53.8%
⑧ 生徒間のつながりが強まったこと	58.4%
⑨ その他	3.0%

この質問は「複数回答可」であり、数値は全65人のうち該当する旨の回答をした生徒の割合である。



半数以上の生徒が、①コミュニケーション力②自信や経験値⑤主体的に行動する力⑦地域との関係深化⑧生徒間のつながり強化について、力や意識が身についたとしており、他者とのつながりやその関係性を築いていく力、自己有用感の高まりを実感していると考えられる。
 今後は、ここで得た経験や自信をベースに、③問題発見力④計画性⑥地域課題意識などの能力をさらに向上させることにつなげていくことが、事業の理念につながると考える。

問5：地域が県立学校（及び生徒）に寄せている「期待」は何であると思いますか。

① 地域の行事に参加・参画すること	64.6%
② 高齢者の支援をすること	23.1%
③ 保育園・幼稚園・こども園・小学生・中学生を支援すること	36.9%
④ まちづくりや地域（産業）振興	55.3%
⑤ その他	6.2%

この質問は「複数回答可」であり、数値は全65人のうち該当する旨の回答をした生徒の割合である。

64.6%生徒が①地域行事参加・参画に、55.3%の生徒が④まちづくり・地域振興に期待を実感している。このことは、生徒が実際の取組の中で、「地域課題を意識」した活動をしたと考えられ、大きな成果であると思われる。

問6：本事業に参加・参画した感想を書いてください。【抜粋】

私は、「生活と福祉」の授業でがんについて勉強しました。がんは、2人に1人になる可能性があって、現在もたくさんの方が病气と闘っておられることを知りました。大宇陀高校では、毎年3年生が、病气やケガで脱毛された人たちに使ってほしいと、ケア帽子というタオルで手作りした帽子を、病院へプレゼントしています。私達も、ケア帽子を先生に教えてもらいながら作り、済生会中和病院へプレゼントしました。後日、帽子を使用した患者様から感謝のお手紙をいただき、とてもやりがいを感じ嬉しかったです。この経験を活かし、これから就職しても、人の役にたてる仕事をやっていきたいと思っています。

はじめは、先輩から招かれたのがきっかけで参加しました。活動に取り組んでいくにつれて、もっと良くなるにはどうすべきか。自分は何をすべきかなどを考えるようになりました。そうすると、活動が楽しくなってきた、どんどん参加しました。そこでコミュニケーション力が一番身につきました。その他にも、アポ取りなども楽々できるようになりました。今後は、訪問させて頂いているお宅と協力して、もっと地域の方とコミュニケーションを取れる場所を作って“ひまわり隊”を広め、高齢者との交流を深めていきたいです。

農業クラブ活動の延長に、この事業がありました。日頃の農業クラブ活動が地域との協働推進事業にリンクし取り組みました。活動を通して地域の抱える問題や課題を教えて頂いたり、見つけたりすることができました。地域の方と関係が深まり一つの活動がきっかけで、現在様々な活動へと広がろうとしています。私はこの活動を通して、苦手であった他人とのコミュニケーションを少し克服できたと思っています。この活動で得た経験をこの後の専門学校での学習に活かしたいと思っています。

<p>幼稚園の子ども達や高齢者の方と関わる中で感謝の言葉を頂いたりする機会が増え、人の役に立てたという達成感、感謝される喜びを改めて知ることができました。取組を通して、自分にも出来ることが沢山ある、それを見つけてどんどん取り組もう、そんな意識が身につきました。今後もっと幼稚園の子ども達だけでなく、小学生、地域の高齢者の方々とも交流できる場やイベント・行事のお手伝いができたらいいなと思っています。</p>
<p>村の祭りや文化祭があると聞いて、見に行く側ではなく、スタッフ側として、来てくれている人たちの笑顔や楽しんでくれる姿を見たかったのでボランティアという形で行かせてもらいました。そのおかげで地域の年配の方や、子どもたちとふれあえていい経験ができたと思っています。そして地域の方と話をすることで、生きる上での勉強にもなったのと、積極的にボランティアに参加するという意識が十分に高まったと感じます。</p>
<p>この取組で、自分たちが中学生達と一緒に合同で練習して教えるということをしました。その時思ったことは、いつも教えている子より年齢が少し低いだけで教え方・伝え方がすごく難しいなと思いました。どうしたら相手の子にうまく伝えられるかと考えました。今回の取組で、相手に何かを伝える時に、またその子が自分より年下なとき、年上なとき、場面によって対応できるようになりたいと感じました。</p>
<p>小学4年生から6年生までの児童を対象に、体力測定支援を行いました。小学生たちが自分たちの声かけで、やる気になったり、1回目より2回目の方が記録が良くなったり、前向きに取り組んでくれました。小学生に伝わりやすくなるよう前でやって見せたり、言葉づかいを工夫してみても良かったです。また、何をすることも効率よくスムーズに進めるよう、道具の準備や説明をすることの大切さを学びました。</p>
<p>今回のこの取組は、スポーツ科としてクラスで幼稚園に行かせてもらいました。小さい子どもたちとふれあうということは、生活をしている中でなかなかあまりできないことです。そのため、始めはどのようにして話せば、小さい子どもが怖がらずに仲良くなれるのか分からなかったけれども、いざ触れあってみるとすぐに慣れ、とても楽しめました。今回の経験はまたなにかに生かせたらいいと思いました。</p>
<p>夏休み工作教室に参加しました。小学生といっしょに「紙コップすもう」を作成しました。小学生に見本をつくりながら教えるのは難しかったが、とても良い勉強になりました。自分がしっかりと内容を理解していないと、人には教えられないことがわかりました。自分でつくったロボットが動いてすもうを取ったのを見た小学生がすごく喜んでくれました。それを見た自分もとてもうれしくなりました。</p>
<p>子どもたちと動物を介して話題を見つけコミュニケーション能力を高めることができました。どう動けば子どもたちが楽しめるか考えながら行動することで、人のことを考える能力が身につきました。仲間と協力して進める力が身につきました。人前に出るのが苦手だったけど、この活動を通して、人前に出ることが苦手ではなくなりました。</p>
<p>毎年参加しており、これまでの取り組みを通して、地域からのボランティアの方々と関係が深まり、清掃活動やあいさつ運動、花の植え替え活動で協力し、地域を活性化させる大切さを学びました。今後は生徒会や部活動からの参加者のみならず、すべての生徒が参加しやすい内容にしていけばよいと思います。</p>
<p>この取組に参加したきっかけは、先生から勧められたからです。取組を通して、コミュニケーション力が身に付いたなと思いました。地域の人達と少しずつ取れるようになってきたと思います。この取組で得た経験を活かし、これから社会に出ても積極的にコミュニケーションを取りに行きたいです。</p>
<p>私たちは地域の方々との交流を深めるためにこの取組に参加しました。この取組を通して自ら主体的に行動する力や意識が部員に身についたと思います。今後もこのような地域の方々との交流を大切にしていき、この取組で得た力や意識をこれからの部活動生活に生かしていきたいです。</p>
<p>奈良県民でありながら、「茶がゆ」については何も知らなかったのが、この活動に参加した。この取組を通して、同級生と協力して物事を成し遂げる力が身につきました。今後はさらに「茶がゆ」を広めていきたいです。この活動で得た力は、社会に出ても活かしていけたらと思います。</p>
<p>取組を通して積極的に行動する力が身につきました。子ども達への接し方や、人前で何かを発表したり、仲間同士での協力活動をすることができるようになりました。人と関わることで他者への感謝の念を抱けるようになりました。</p>
<p>部活動で高齢者施設を訪問しました。お年寄りの前で、部活動で練習した歌や楽器の演奏を披露しました。お年寄りに喜んでいただき自信になりました。これからもお年寄りに喜んでもらえるように頑張りたいと思います。</p>
<p>ぼくはごみひろいをしました。みちにはごみがたくさんすてられていました。みんなでそうじをしてとてもきれいになりました。ぼくはまたちいきせいそうかつどうをしたいです。</p>
<p>ボランティアさんが参加してくれたので作業がスムーズにできて良かったです。ボランティアさんと話す機会が少なかったのが、これからは増やせるようにしていきたいです。</p>
<p>学校の家庭クラブの一員として、地域の活性化を目指して参加しました。地域の方と交流する場などがあり、コミュニケーション力などが身につけてきたと思います。</p>
<p>生徒会として行きました。人とかがかわることが出来ました。募金活動をまたしてみたいです。次は、大きな声でしゃべりたいです。</p>